

(案)

都市づくりのグランドデザイン
(素案)

-The Grand Design for Urban Development-

平成 29 (2017) 年 5 月
東京都

目次

| | |
|----------------------------------------|------------|
| はじめに..... | 1 |
| 第1章 都市づくりのグランドデザインの役割..... | 2 |
| 1 位置付け | 2 |
| 2 目標時期 | 2 |
| 第2章 2040年代の社会状況や都民の活動イメージ | 3 |
| 1 東京の人口予測..... | 4 |
| 2 社会状況や技術革新の見込み..... | 6 |
| 3 2040年代における都民の活動イメージ | 10 |
| 第3章 東京が果たすべき役割..... | 15 |
| 1 世界における役割..... | 15 |
| 2 日本における役割..... | 17 |
| 第4章 目指すべき新しい都市像..... | 18 |
| 1 都市づくりの目標..... | 18 |
| 2 目指すべき都市構造..... | 19 |
| 3 新たな地域区分 | 28 |
| 第5章 都市づくりの戦略と具体的な取組..... | 35 |
| 1 都市づくりの7つの戦略 | 35 |
| 2 7つの戦略に沿った具体的な取組..... | 50 |
| 第6章 個別の拠点や地域の将来像..... | 122 |
| 第7章 2040年代の将来像の実現に向けて | 144 |

はじめに

東京は、今後、人口減少局面に入るとともに 2040 年代には高齢化率が約 3 割に達するなど、これまで世界のどの都市も経験したことのない少子高齢・人口減少社会を迎えることとなります。

また、グローバル化の進展、巨大地震の脅威や深刻化するエネルギー問題など、国内外の社会経済情勢の大きな変化や様々な困難に直面することも想定されています。

一方で、自動運転技術や再生可能エネルギーの普及など、都民生活や企業活動に影響を与える幅広い分野の技術革新が見込まれています。さらに、道路や鉄道のネットワークの形成が進むことで首都圏全体の交通・物流機能が大きく改善し、人やモノの流れがより広域化することや、人々の価値観やライフスタイルの一層の多様化も想定されています。

社会環境が大きく変化する時代においても、東京は、その変化に対応できる都市として、持続的に発展していかなくてはなりません。

そのため、都市づくりが構想から実現までに長い時間を要することを踏まえ、将来を見据えて、今なすべきことを着実に取り組み、より良い都市の実現につなげていきたいと考えています。

世界の都市総合ランキング※（2016 年）で、東京は、ロンドン、ニューヨークに次ぐ第 3 位であり、都市の成長がその国の成長を牽引すると言われるなか、東京が持つ強みを伸ばし、課題を克服することで、世界第 1 位の都市を目指していきます。

2020 年には、東京で 2 度目となる東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京 2020 大会」という。）が開催され、2045 年には戦後 100 年の節目を迎えます。壊滅的な状況からよみがえった東京の繁栄は、一朝一夕にできたものではなく、先人たちのたゆまぬ努力の積み重ねによるものです。

2040 年代は、東京 2020 大会を小学生・中学生・高校生として迎える世代が社会を担う時代です。私たちには、この「世界を感じた次世代」に、活力、ゆとり、潤いのある都市空間や質の高い豊かな生活を確実に引き継いでいく使命があります。

将来においても、都民が夢と希望を持ち、豊かな生活を実感できる都市で在り続けるため、都市の将来像とその実現方策を「都市づくりのグランドデザイン」として示し、次世代に確実に継承できるよう、都市づくりに取り組んでいきます。

第1章 都市づくりのランドデザインの役割

1 位置付け

「都市づくりのランドデザイン」は、平成28(2016)年9月に東京都都市計画審議会から示された答申「2040年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について」を踏まえ、目指すべき東京の都市の姿とその実現に向けた、都市づくりの基本的な方針と具体的な方策を示す行政計画(以下「本計画」という。)です。

本計画は、『都民ファーストでつくる「新しい東京」～2020年に向けた実行プラン～』などの他の政策や計画との整合を図りつつ、目指すべき都市の姿や戦略を明らかにすることに主眼を置いており、その達成に必要な財源やスケジュールを詳細に規定するものではありません。

今後、都市計画区域マスタープラン^{*}や個別の都市計画、また、分野横断的な様々なプロジェクトなどにより、本計画に示す目指すべき都市像の具体化を図り、将来を見据えて着実に都市づくりを進めていきます。

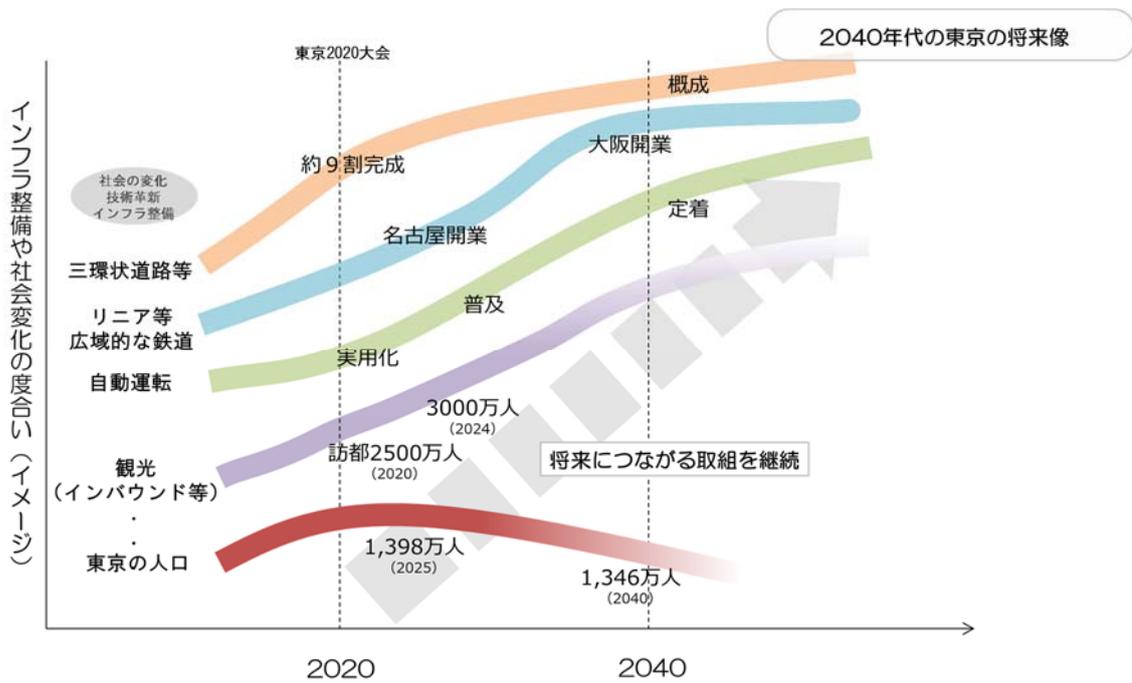
2 目標時期

将来の社会経済情勢の大きな変化に適応でき、持続可能な成長を促すため、おおむね四半世紀先の未来である2040年代を目標時期として設定します。

第2章 2040年代の社会状況や都民の活動イメージ

今後ピークアウト[※]が見込まれる人口の動向の中にあっても、社会の変化や技術革新、インフラ整備の進展などを踏まえた明るい未来への展望として、2040年代の社会状況や都民の活動イメージを都市づくりの前提として示し、より良い都市の実現につなげていきます。

<想定されるインフラ整備や社会の変化の例>

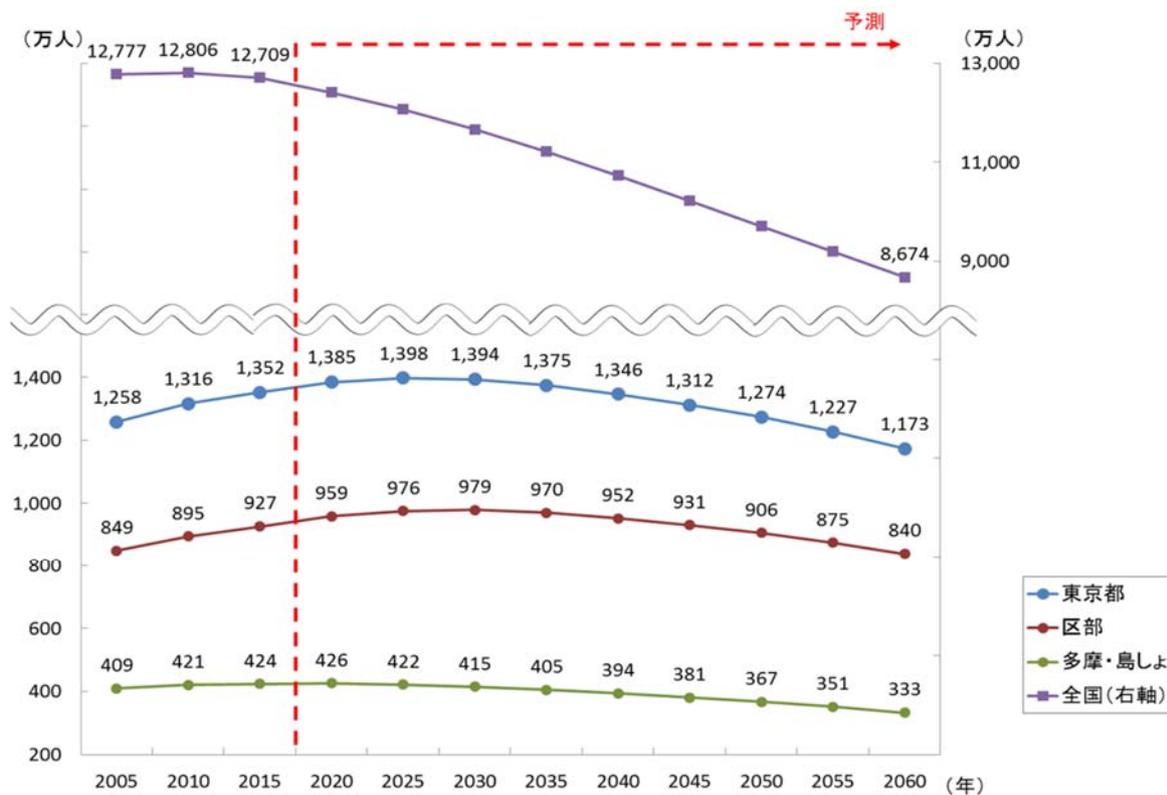


1 東京の人口予測

(1) 人口は2025年をピークに減少局面へ

我が国の人口は既に減少が始まっており、東京の人口も、現状は増加傾向にあるものの、2025年をピークに減少に転じ、2040年には1,346万人（2015年比約6万人減）と予測されています。

<全国と東京都の人口の推移>



(備考) 2020年以降の東京の人口は東京都政策企画局による推計

(資料) 「都民ファーストでつくる『新しい東京』～2020年に向けた実行プラン～」
 (平成28年12月 東京都政策企画局) から東京都作成

(2) 2040年代には約3人に1人が高齢者に

2015年の東京の高齢化率[※]は22.7%であり、全国(26.6%)よりも低い水準であるものの、今後、東京でも全国の後を追うように高齢化が進行していくと予想され、東京の高齢者数は急激に増加していくことが見込まれています。

東京の高齢者人口(老年人口)は、2045年には411万人(2015年比約110万人増)、高齢化率が31.3%(2015年比約8.6%増)と、初めて高齢化率が3割を超える見込みであり、都民の約3人に1人が高齢者となる時代が到来します。

＜東京都の年齢階級別人口の推移＞



(備考) 1. 2020年以降は東京都政策企画局による推計
 2. 四捨五入や、実績値の総数には年齢不詳を含むことにより、内訳の合計が総数と一致しない場合がある

(資料) 「都民ファーストでつくる『新しい東京』～2020年に向けた実行プラン～」
 (平成28年12月 東京都政策企画局) から東京都作成

2 社会状況や技術革新の見込み

2040年代には、世界との垣根があらゆる面で低くなり、都市活動もこれまで以上に多様化していきます。

東京はこれらの状況に的確に対応し、活力を持ち続けている明るい未来を展望しています。

(1) 社会状況の見込み

1) 世界の人々の往来が活発化

外国人との交流が日常化し、言葉の壁を乗り越えたコミュニケーションが活発化しており、日本の伝統・文化と多様な国際文化とが共存する東京ならではの、にぎわいが生まれています。外国企業の誘致や高度専門人材をはじめとする外国人人材の受入れや活躍も進展し、東京は外国人にとっても暮らしやすい都市として高い評価を得ています。

また、インバウンド[※]やMICE[※]需要の取り込みに向けた対応が進み、ビザ申請手続の簡素化など、出入国がこれまで以上に容易になることにより、世界の人々の往来・交流が更に自由・活発になり、東京は、国内外からビジネスや観光など、様々な分野において多くの人々が憧れ、訪れる世界有数の国際都市としての地位を確立しています。

2) 高齢者と子育て世代の社会参画

高齢者の健康寿命は更に延び、科学技術の進歩もあいまって、高齢者が自らの経験や知識を生かして生涯現役で働いたり、ボランティア活動をしったりするなど、幅広く活躍し、社会を支えています。

また、安心して出産や子育てをしながら安定して働くことができるとともに、まち全体で子育てを支える環境が整っており、子供たちが将来に夢や希望を持ち、健やかに成長できる社会になっています。

3) 価値観の多様化とライフ・ワーク・バランスが実現

経済的な価値だけでははかれない「ゆとり」や「質」を重視する生活、モノを持たずにシェア・レンタルする生活など、人々のライフスタイルや価値観が多様化しています。

また、仕事の効率性・生産性の向上や働き方の見直しにより生まれた時間的な余裕を、家庭や趣味に生かすなど、ゆとりのある私生活と仕事とを両立できるライフ・ワーク・バランスが実現しています。

4) 創造的な芸術・文化活動が増加

日本のみならず世界中の芸術・文化に親しむことがより身近になり、まちにエンターテイメントがあふれています。

また、生活の中に創作活動が融け込み、創造的な芸術・文化活動は、都市の新たな魅力を創出し、暮らしに豊かさや潤いをもたらすとともに、更なる経済的な価値を生み出す源泉となっています。

5) 自然災害や新たな危機への対応

巨大地震や気候変動による異常気象などを起因とする未曾有の自然災害にも、ハード・ソフトの両面からの的確な対策が整っているとともに、拡大するテロや進化するサイバー攻撃、新たな感染症などの脅威への高度な危機対応能力も備えられており、活気とにぎわいを支える安全・安心な都市が形成されています。

6) 国内外をつなぐ広域的なインフラが充実

三環状道路※は概成時期を迎え、リニア中央新幹線※も東京-大阪間で開業しています。

また、国内外をつなぐ陸海空のインフラが日本全体で更に充実し、人々がより広域にわたって円滑に移動しています。

(2) 技術革新の見込み

近年、人工知能（AI）※、自動運転、環境技術など、様々な技術の開発や実用化が急速に進んでおり、2040年代には、これらの技術が普及・浸透し、社会を支えていることが考えられます。日々進化する技術は人々に利便性や豊かさをもたらすものであり、新しい技術を積極的かつ柔軟に受け入れられる都市づくりが重要です。

ここでは、それぞれの技術が将来社会の中でどのように活用されているかを示していきます。

1) 自動運転技術

完全自動走行システムの実用化により、自動車交通の安全性が飛躍的に向上するとともに、交通渋滞の緩和など、人・車・交通環境の情報を統合的に活用する取組が進んでいます。これにより、高齢者や子育て世代など交通弱者の自由な移動、移動時間の活用、緊急輸送時間の短縮、公共交通機関や物流における効率化が進展しています。

さらには、自動車の所有・利用形態が多様化し、公共的な交通としての活用が普及するとともに、道路空間は活用の自由度が増し、自動車だけでなく歩行者や緑

2 社会状況や技術革新の見込み

の空間として活用することで、人中心のまちづくりが可能となるなど、ゆとりのある土地利用が拡大しています。

<大型トラックの自動運転・隊列走行>



国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構は、平成25年2月、複数のトラックを自動運転で一定の間隔で隊列を組みながら走行させる実験に成功し、自動運転の実用化に向けた取組を進めています。

(出典)「大型トラックの自動運転・隊列走行実験に成功 ―エネルギーITSプロジェクトの事業成果を公開―」(平成25年2月 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)

2) エネルギー・環境技術

エネルギー利用の効率化などの技術革新や環境に優しい製品の選択などの意識改革が進み、再生可能エネルギーや水素エネルギーが都市活動を支えるエネルギーとして活用され、持続可能で、より低炭素でエネルギー利用に不安のない社会への転換が進んでいます。

燃料電池自動車^{*}や電気自動車などの普及拡大によるエネルギー利用の効率化や、エネルギー事業の自由化や身近で多様な発電施設の整備・活用などにより、エネルギーの地産地消が進んでいます。

また、完全な循環型社会の実現に向けた廃棄物処理・リサイクル、上下水道処理や省エネ・ヒートアイランド対策^{*}など、優れた環境技術の導入が飛躍的に進展し、高効率な資源・エネルギー利用や大気・水・熱環境が総合的に改善しています。

3) 人工知能(AI)技術

人工知能技術が飛躍的に進展し、その導入により多様な機能が幅広い分野で実用化され、交通渋滞の緩和、公共交通の自動運転、健診の高度化など、社会の課題解決に役立っています。

人工知能技術の応用により、認知機能や判断機能が備わったロボットが、産業・福祉分野などに幅広く導入され、高齢者や障害者などの生活支援に活用されるとともに、幅広い分野の労働力として貢献しています。

4) 情報・通信技術

ICT^{*}(Information and Communication Technology)の進展により、多くの新技術が産業や生活に取り込まれ、その安全性・利便性・効率性などが高まり、情報・通信技術により人々の暮らしが豊かになっています。

このうち、IoT^{*}(Internet of Things)技術により、モノの位置や動き、状況など

をリアルタイムに把握・コントロールすることができるようになり、商品のカスタムメイド※化、品質や生産性の向上、エネルギーの効率化、廃棄物の減少などに活用されています。

また、官民の保有する様々なデータが個人情報に配慮した形でオープンデータ※化され、誰もが自由にデータを入手・加工・分析・活用できるようになっており、様々な分野で個々のニーズに合わせた新たなサービスの提供も行われています。

位置情報やカスタマーデータ※、ソーシャルメディアデータ※など、ビッグデータ※についても活用が進み、利用者個々のニーズに即したサービスの提供や業務運営の効率化、新たな産業が創出されています。

情報の安全性については、生体認証技術※や情報管理技術の進展により、情報セキュリティレベルが向上し、犯罪やサイバー攻撃、テロなど、様々な脅威への対応能力が高まっています。

<物流倉庫における作業の自動化>



米 Amazon は、物流倉庫において、作業棚を作業員に届ける作業ロボットを導入し、作業の効率化や人件費の削減、配達の迅速化に向けた取組を進めています。

(出典)「平成 28 年版情報通信白書」(平成 28 年 7 月 総務省)

3 2040年代における都民の活動イメージ

社会状況や技術革新を踏まえ、2040年代に東京に住み、働き、訪れる人が、どのような活動をしているのか想定できるイメージを展望していきます。

(1) 世界を相手に活躍できる

ビジネスや研究、文化、食など、様々な分野でグローバルなマーケットを相手に活躍することができ、豊かな生活を実感しています。

◆ビジネスで世界に挑戦

- ・区部中心部のビジネスセンターには、国内外から世界トップレベルの企業がアジアでの業務統括拠点※を置き、多様な人材が集まっています。
- ・国際金融やライフサイエンス※など、付加価値を生み出す国際競争力の高い産業に従事するビジネスパーソンが活発に交流し、新たな価値を創出しています。

◆イノベーションで世界に貢献

- ・幅広い分野で新たなイノベーションを生み出すベンチャー企業が途切れることなく創出され、最先端の技術を有する多くの企業が世界を舞台に活躍しています。
- ・新たな価値を生み出すインキュベーション※施設では、企業、大学、研究機関等のつながりの下、開発・製品化等を支えるプラットフォームが形成され、好循環を生んでいます。

◆都市農業等で東京ブランドを世界に発信

- ・大消費地との近接性を生かしながら先端技術を活用した小規模・多品種生産等により高い付加価値を有する都市農業が進展し、価値の高い江戸東京野菜として世界にも発信されています。
- ・また、東京の洗練された伝統文化や食、サービスなどは、世界の憧れの的であり広く世界に発信されています。
- ・スペースの少ない都市部においても農地が確保され、次世代に引き継がれています。

<国際色豊かな顧客>



(画像提供)Getty images

(2) 誰もがいきいきと交流・活躍できる

若者、女性、高齢者、障害のある人、外国人など、誰もが意欲と能力を生かして自由に交流し、多様な人々がコミュニティを支え、いきいきと活躍しています。

◆誰もが自分の可能性を生かして活躍

- ・かつては十分に活躍の場を得ることが難しかった子育て期の女性や高齢者、起業を志す若者等、誰もが意欲や能力・経験などを生かせる社会の中でいきいきと活躍しています。
- ・病院や学校、保育所など、外国人が安心して日本で暮らせる環境も整っており、世界各国からも多くの人が集まり、多様な人々が活躍しています。

◆技術の進展により生活の自由度が広がる

- ・ユニバーサルデザイン※のまちの中で、介護ロボットや自立を支援するロボットを活用しながら、高齢者や障害者は安心して快適な日常生活を送っています。
- ・完全自動運転技術の普及により、デマンド交通※として好きな場所まで好きな時間に公共交通機関を利用できるようになり、誰もが気軽に外出し、交流を楽しんでいます。

◆活発な地域交流によるにぎわい

- ・暮らしに身近な地域においても、商店街などを中心とした交流の核づくりが進められており、地域の個性を生かした新たなにぎわいと活発な交流が生み出されています。
- ・古くから続く祭りなど、伝統の継承を通じ、活発な地域コミュニティの下で風情のある街並みが維持・形成され、人々の交流が盛んに行われています。
- ・元気で健康な高齢者をはじめ、障害のある人、外国人等、多様な人々が積極的に地域活動に参加し、地域コミュニティが活性化しています。
- ・外国人対応の病院や学校、保育所などが増え、安心して日本で暮らせる環境が整っており、世界各国から多くのビジネスパーソンが集まっています。

<マルシェで買い物やイベントを楽しむ>



(画像提供)森ビル株式会社

(3) 多様なライフスタイルを選べる

平日・休日という感覚を持たずに自由にゆとりを持って働いています。
個人の価値観やライフスタイルに合わせて暮らし方を選ぶことができます。

◆ニーズに合わせた働き方

- ・人々は余暇と仕事の時間を自分で選択できることにより、行動の幅が広がり、自由で質の高い東京での生活を楽しんでいます。
- ・テレワークの普及などにより、在宅勤務をはじめ日々の生活に時間的な余裕を生む新しい働き方が定着し、共働き夫婦も子供とゆっくり触れ合う時間を楽しみながらゆとりを持って子育てをしています。
- ・海外のビジネスパーソンとも言語や時差、距離を気にせずに会議などのコミュニケーションが可能となり、スムーズにビジネスが展開されています。

◆ゆとりのある暮らし方を満喫

- ・リノベーションした空き家や古民家を別荘として二地域居住を送るなど、暮らし方も多様化し、ライフスタイルに合わせた暮らしを楽しんでいます。
- ・企業の活動スタイルも多様になり、ビジネス拠点でのフェイス・トゥ・フェイスを中心としたビジネス活動とは別に、スペースや自然環境の豊かさを求めて本社機能やサテライトオフィス※を移転する動きも増えており、ライフスタイルに応じた暮らしと仕事とが両立できる環境が多様な人材を惹き付けています。

◆芸術・文化を身近に体感

- ・デジタルアートなど、最新技術を駆使したアートイベントから日本の伝統芸能まで、多彩な芸術・文化活動が行われ、仕事帰りのビジネスパーソンや国内外の観光客が、東京ならではの芸術・文化を満喫しています。
- ・歩道や公園などでは、芸術的なストリートファニチャー※が随所に見られたり、ライブパフォーマンスの舞台として活用されるなど、誰もが気軽に芸術活動を楽しめる場が広がっています。

<テレワークによるゆとりのある働き方>



(画像提供)Getty images

(4) 自然に親しむことができる

緑や水の安らぎや潤いを身近に感じ、健康的な生活を楽しんでいます。

◆都会で自然を感じながらスポーツや趣味を楽しむ

- ・東京港から陸側に広がる運河などでは、水や緑による安らぎや潤いを感じられる豊かな水辺空間がにぎわいを生んでおり、カヌーで遊ぶ子供たちを親がオープンカフェから穏やかに見守る光景も見られています。
- ・都会の中の憩いの場となっている緑豊かな公園には多くの人が行き交い、昼間は開放的な空間でイベントを、夜は春のお花見をはじめ一年を通じ交流を楽しんでいます。
- ・多くの人々が日常生活の中で四季折々の自然に親しみながら、快適に街中で散策やジョギング、サイクリングを楽しんでいます。

◆郊外では緑や水に囲まれた穏やかな生活

- ・身近に緑や水と触れ合いながら、価値観を共有する仲間と共にゆとりのある暮らしを送っています。
- ・庭付き・畑付きのすまいで、子育て世帯も家族で団らんしながらいきいきと暮らしています。
- ・農業の多面的な経営が進み、住宅地の近くにあるサポート付きの貸し農園では、土に触れる暮らしを体験しながら、採れたての野菜を楽しむ家族連れでにぎわっています。

◆大自然の中で非日常を体験

- ・島しょ部では、観光に訪れる人々が世界的にも希少な生態系など、東京の島の魅力を感じながらエコツーリズム※を楽しんでいます。
- ・多摩では、豊かな自然環境の中での本格的なアウトドアスポーツが注目を集め、国内外から多くの人々が集まっています。

<自宅の庭で家族団らん>



(画像提供)Getty images

(5) 安心して住み続けられる

安全・安心な環境の中で、多様な文化を受け入れ活気のある東京らしさを感じながら暮らしています。

◆地域で人と人が支え合う

- ・地域では、つながりの強いコミュニティにより活発にイベントが開催され、子供から高齢者まで、多世代の人がまちに誇りを持ち、触れ合いながら暮らしています。
- ・多様な世代による地域コミュニティにも見守られながら、子供たちは伸び伸びと成長しています。

◆災害に備えてしっかり準備

- ・かつての木造住宅密集地域*は安全で快適なまちに再生され、人々が安心して暮らしています。
- ・東京ならではの風情のある街並みの中で、子供から高齢者まで、地域に愛着を持って快適に暮らしています。
- ・防災イベントにも気軽に参加するとともに、災害時にお互いが協力し合えるよう、訓練など、地域のコミュニティ活動にも携わっています。

◆東京らしさを感じ続けられる

- ・東京の伝統文化と海外の様々な文化との共存によるにぎわいや緑豊かな住宅地、魅力のある商店街、風情のある下町など、住み、訪れる人が、東京ならではの趣きを感じながら暮らしています。
- ・かつてあった電柱や電線に邪魔されることなく、上空に広がる青空を楽しんでいます。

<地域住民等による共助訓練>



第3章 東京が果たすべき役割

東京の都市像を描くためには、東京が将来、国際社会や日本の中でどのような役割を果たすべきかを明確にし、その上で、どのような都市を目指すべきかを考える必要があります。

1 世界における役割

(1) 包容力を持ち、多様な人々・文化の交流を育む

東京は、一都三県で人口 3,600 万人を擁する世界でも類を見ない大都市圏の中心です。政治・経済・文化など、多様なサービス・産業の集積をベースに、大規模で安定感と信頼感のあるマーケットが構築されており、世界の中でも高感度な消費者をターゲットにしたショーケース、テストマーケット的な機能を引き続き担っていきます。

多彩な魅力とイノベーションを創出するとともに、多様な人々と文化の交流の場や世界に羽ばたく人材を育成する場としての役割を果たす、包容力のある都市を目指します。

<都市空間における先端技術のショーケース化>



文部科学省は、日本の優れた技術・社会システムを国内外にアピールするため、先端ロボットが活躍する社会を体験できる場を創出するなど、先端技術のショーケース化を推進しています。

(出典)「第1回ユニバーサル未来社会推進協議会」資料
(平成27年9月 文部科学省)

1 世界における役割

(2) 都市課題の先駆的な解決モデルを構築・発信する

東京は、世界に類を見ない急速な少子高齢・人口減少が進むことや切迫する大地震の予測など、大都市の課題やリスクが存在します。今後、東京がいち早くこれらの解決策を見出し、世界の範となるべくモデルを示していきます。

また、東京は、これまで急速な人口増加に対応した計画的かつ効率的な都市基盤や市街地の整備などを進めてきた経験や、大気汚染やヒートアイランド対策など環境問題に取り組んできた経験があり、そのノウハウや技術を同様の課題を抱える都市で生かしていきます。

(3) 伝統と先進を融合させ、新たな価値を創出する

江戸開府以来 400 年にわたり培ってきた歴史や伝統と、最先端の技術や先鋭的な芸術を融合させ、東京ならではの個性として発揮し、新たなビジネスモデルや、成熟時代における都市やライフスタイルの在り方、文化的な価値を創出し、世界に発信していきます。

<東京ビッグサイトプロジェクションマッピング>



東京国際プロジェクションマッピングアワード実行委員会は、2016年に東京ビッグサイトの壁面を活用したプロジェクションマッピングの大会を開催し、将来のコンテンツ産業の中核を担う世界で通用する若手映像クリエイターの育成や、CG技術の高度化・普及を進めています。

2 日本における役割

(1) 日本の首都として経済活動の推進力を発揮する

人・モノ・情報が集積しているというアドバンテージを生かして時代の変化に対応した付加価値の高い産業・サービスを創出するとともに、ライフサイエンスやICT等の高次な機能を集積してくことにより、引き続き、経済活動の推進力を発揮し、日本の持続的な成長を支えていきます。

(2) 様々な地域と連携し、一層魅力的な日本を創造・発信する

日本の各地と東京とが、それぞれの持つ魅力を高めることはもとより、広域的な交通・情報ネットワークを活用し、産業、観光、文化などの面で交流・連携を深め、東京から日本全体の魅力を世界に発信していきます。

<東北六魂祭パレード>



東京新虎まつり実行委員会は、平成28年11月に虎ノ門で、東日本大震災からの復興を願ってパレードを開催し、東日本大震災から立ち上がった東北の姿や、世界に誇る日本の魅力のある伝統文化を発信しました。

(出典)第4回「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化を通じた機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議」経済産業省資料
(平成28年12月 首相官邸)